

別記様式第1号（第4条関係）

近江八幡市水郷ブランド農産物使用承認申請書

年 月 日

近江八幡市長 様

申 請 者

住 所

氏 名



(団体にあつては、主たる事務所等の所在地、名称及び代表者の氏名)

近江八幡市水郷ブランド農産物の表示を使用いたしたく、関係書類を添えて申請します。

農作物名（作型等）	
-----------	--

添付書類 生産者登録書、栽培計画図、栽培地位置図、（団体にあつては構成員全員の名簿及び組織の規約）

別記様式第2号（第4条関係）

生産者登録書

組織名	
生産者名・代表者名	
住所	〒
電話番号	
FAX番号	
栽培地先	
栽培面積	
栽培地目	
ほ場特徴	
品目	
品種名	
品種特性	
作付け型栽培方法	
施肥体系	
防除体系	
栽培特性	
栽培期間	
収穫期間	
出荷期間	
予定収穫量／10a	
生産者の一言 (栽培上の安全安心への対応と環境へのこだわりについて記入してください。)	

※ 生産者1名につき1枚、ほ場1ヶ所につき1枚、生産品種1種類につき1枚が必要。栽培計画フロー図添付必要

栽 培 計 画 図

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	上旬 中旬 下旬	上旬 中旬 下旬	上旬 中旬 下旬	上旬 中旬 下旬	上旬 中旬 下旬	上旬 中旬 下旬	上旬 中旬 下旬	上旬 中旬 下旬	上旬 中旬 下旬	上旬 中旬 下旬	上旬 中旬 下旬	上旬 中旬 下旬
栽培目標												
生育経過												
栽培のポイント												
土づくり施肥のポイント												
病虫害雑草防除のポイント												
栽培と品質の条件												

生産者名・団体名

近江八幡市水郷ブランド農産物栽培管理記録表

生産者氏名・団体名	
-----------	--

住所：			栽培地：				品種名：			栽培面積： a		
作業日誌			施肥・土づくり日誌				防除日誌（希釈倍数表示は% 使用量表示は10a）					
作業名	番号	実施月日	区分	番号	肥料名	施肥月日	施肥量	区分	番号	農薬名	散布月日	使用量
	1			1					1			
	2			2					2			
	3			3					3			
	4			4					4			
	5			5					5			
	6			6					6			
	7			7					7			
	8			8					8			
	9			9					9			
生産者確認							備考			J A	普及センター	市農政課
年 月 日 ㊟ 上記のとおり栽培しました。												
栽培後の考察							特記事項					

※ 栽培面積は、水田においては水稲共済細目書等営農計画書と整合した面積を記入のこと。

別記様式第6号（第6条関係）

近江八幡市水郷ブランド農産物実績報告書

年 月 日

近江八幡市長 様

住 所

氏 名 ㊤

（団体にあっては、主たる事務所等の所在地、名称及び代表者の氏名）

近江八幡市水郷ブランド農産物推進要綱第6条の規定に基づき、関係書類を添えて
実績を報告します。

使用承認番号	
農作物名（作型等）	

添付書類 栽培管理記録表の写し、ブランド表示管理台帳の写し

別記様式第7号（第7条関係）

近江八幡市水郷ブランド農産物出荷計画書

申請者名

農作物名	
------	--

記

出荷時期	出荷数量	出荷・販売先	ブランド表示 利用枚数	備考
計				

「行動基準」アクションコード計画表 氏名 _____

作物名 _____ 栽培地 _____ 栽培面積 _____

複数筆の場合は、別紙一覧表を利用のこと。

コード	実施基準	基準内容
-----	------	------

○ 必須項目

1 安全安心への取組

(確認実施の予定日を記入のこと)

1.1	化学合成農薬の取扱い	
1.1.1	<input type="checkbox"/>	国内登録農薬の中で、滋賀県農作物病害虫雑草防除基準に基づく農薬を使用している。
1.1.2	<input type="checkbox"/>	農薬の取扱い（混合・希釈）と散布は、ラベルの指示に従っている。
1.1.3	<input type="checkbox"/>	農薬散布について、記録をしている。
1.1.4	<input type="checkbox"/>	農薬の購入に当たっては、計画的な購入をし、散布におけるやむを得ない残量は、散布むらの補正対応で処理している。
1.1.5	<input type="checkbox"/>	苗を育成する場合、育苗記録と使用農薬の記録をしている。
1.1.6	<input type="checkbox"/>	点検・モニタリング・予察により適期に適正な防除に努め、最低必要量による農薬防除をしている。
1.2	肥料	
1.2.1	<input type="checkbox"/>	購入した肥料はその化学成分表を確認し、窒素、リン酸、カリウムなどの含有量を把握している。
1.2.2	<input type="checkbox"/>	過度の施肥による土壌、地下水、作物の汚染が起こらないよう、必要最低限の施肥量を適切な方法や技術で施肥栽培している。
1.2.3	<input type="checkbox"/>	施肥について記録をしている。
1.3	農薬の飛散・残留への対応	
1.3.2	<input type="checkbox"/>	周辺地への農薬のドリフト（飛散）がないように、散布方法や散布機具のノズル対応、風向きなどに気をつけている。
1.3.4	<input type="checkbox"/>	指定農作物について、出荷前の休薬期間「収穫前日数以上に加算日数」を設けています。附表の休薬日数指定作物表に基づき実施
1.4	堆肥の適正利用	
1.4.1	<input type="checkbox"/>	堆肥などの使用はリスクを判断し、完熟堆肥を利用するなどリスクを回避するよう工夫している。（附表の堆肥その他の有機質資材の適正施用量を参照）

1.5	土づくり	
1.5.1	<input type="checkbox"/>	土づくりに向けた前作の稲わら、籾殻、麦わら等のすき込みをしている。
1.6	安全管理	
1.6.1	<input type="checkbox"/>	肥料が農産物、種苗、梱包材、農薬などと接触しないよう保管している。
1.6.2	<input type="checkbox"/>	防護服・防除器具等は、防除作業後に清掃・洗浄している。
1.6.3	<input type="checkbox"/>	栽培する品種を選択する際、消費ニーズ、耐病性、耐虫性、農薬や肥料の使用量が少ないものなどから品種を選択している。地域の伝統野菜は、この限りでない。
1.6.4	<input type="checkbox"/>	農作物の輸送時の安全対策として輸送用のトラック、コンテナ等を異物混入などがないか確認するとともに清掃している。
1.6.5	<input type="checkbox"/>	農産物の取扱いについては、体調の悪い人やケガのある人の作業を中止する。手洗い、詰めの高さ、喫煙・休憩・食事の場所など安全対策に工夫している。
1.6.6	<input type="checkbox"/>	農地や農業施設から出るゴミを減らすと共に分別処理し、野菜くずなど作物残渣は農地に還元したり、家畜飼料に利用している。
1.6.7	<input type="checkbox"/>	農薬の空き容器の処理は、適正処理として公的な機関などの廃プラスチック回収を利用している。
1.6.8	<input type="checkbox"/>	作業者は農薬のラベルに従って、ゴム靴、防水服、ゴーグル、ゴム手袋、マスクなどの防護服を着用している。

2 景観形成

2.1	圃場管理	
2.1.1	<input type="checkbox"/>	麦、稲などのわらや籾殻などは農地に還元している。圃場全体での焼却はしないが、やむを得ない一部での焼却は火の管理に努めている。
2.1.2	<input type="checkbox"/>	圃場の適正管理に努めるとともに、特に収穫後の農作物残渣を放置せず、早期すき込みをしている。
2.1.3	<input type="checkbox"/>	圃場の使用していない間（未使用期間）は、適正に雑草管理をしている。
2.2	耕種的雑草対策	
2.2.2	<input type="checkbox"/>	風景を損なうような除草剤の使用を避け、景観に配慮して耕種的防除を行うなど、除草剤の使用について工夫している。

3 水質管理と水利用

3.1		水環境対策	
3.1.1	<input type="checkbox"/>	年 月	魚介類に強い影響を与える恐れのある化学合成農薬魚毒性区分C類の使用を避けるよう努め、やむを得ず使用する場合は、水域に流出しないよう工夫をしている。
3.1.2	<input type="checkbox"/>	年 月	除草剤をはじめ農薬や肥料を必要以上に使用しないよう気をつけるなど、使用した農薬や肥料が水域を汚染しないよう各種代替技術を活用する工夫をしている。
3.1.3	<input type="checkbox"/>	年 月	化学肥料の保管場所には、梱包の破損や雨の影響や水域を汚染しないよう気をつけている。
3.2		水利用対策	
3.2.1	<input type="checkbox"/>	年 月	未処理の下水は灌漑に使わず、下水が圃場に入っていないようにしている。
3.2.2	<input type="checkbox"/>	年 月	農産物を最後に洗う水や農産物と触れる水や水は飲んでも害のない、地域の飲用水の基準に適合しているものを使用している。
3.2.3	<input type="checkbox"/>	年 月	農産物を洗う水が、下流水路などの水域を汚さないよう工夫をしている。
3.3		生態環境	
3.3.3	<input type="checkbox"/>	年 月	自分の農業活動によって起こる環境破壊を最小限にとどめるために何らかの努力をしている。
3.4		研修	
3.4.1	<input type="checkbox"/>	年 月	行政等が開催する研修会に進んで参加するようにしている。

4 審査その他事項

4.1		審査	
4.1.1	<input type="checkbox"/>	年 月	自己審査を年1回以上行ったことが、チェックリストの記録でわかるようにしている。
4.1.2	<input type="checkbox"/>	年 月	自己審査の結果、不適合であった項目を改善し、記録として残している。
4.1.3	<input type="checkbox"/>	年 月	審査の受入時には、関係記録を準備し、対応が出来るようにしている。
4.3		エネルギー	
4.3.1	<input type="checkbox"/>	年 月	ハウスの加温、穀類の乾燥など機械等の使用で不必要・非効率的なエネルギー消費がないよう努めている。例えば、不必要な照明の消灯や木質ボイラーなどの利用

○ 選択項目

(選択項目をチェックのうえ実施の予定日を記入のこと)

1.1		化学合成農薬の取扱い	
1.1.7	<input type="checkbox"/>	年 月	ミツバチなどの有用昆虫やナノテープ・粘着板等を利用して使用農薬を削減している。
1.3		水環境対策	
1.3.1	<input type="checkbox"/>	年 月	農作物について年1回以上残留農薬分析を行うよう努めている。 (市の実施する残留農薬分析を利用)
1.3.3	<input type="checkbox"/>	年 月	農薬のドリフト対策として緩衝地帯や遮蔽物・バンカー作物などを設ける対策をしている。
1.5		土づくり	
1.5.2	<input type="checkbox"/>	年 月	土づくりに向けた、土壌改善、土壌団粒化、土中の微生物量の増加などの努力をしている。(堆肥施用量は：別表参照)
1.6		安全管理	
1.6.9	<input type="checkbox"/>	年 月	農薬に対する依存を軽減・残効肥料を有効利用することから、輪作に努めている。
2.2		耕種的雑草対策	
2.2.1	<input type="checkbox"/>	年 月	畦畔を有する圃場の畦畔草刈により除草剤を控える耕種的対応や圃場周辺にカバープランツ、花などの景観作物を植栽している。
3.3		生態環境	
3.3.1	<input type="checkbox"/>	年 月	農地周辺に生息する動植物を把握しており、それらと自分の農業活動にどのような関係があるか認識している。
3.3.2	<input type="checkbox"/>	年 月	農業生産に支障の無い範囲で、自分の農地内または周辺地の動植物の多様性を助長するために努めている。ただし、獣害や害虫対策としては助長しない適正管理を行うものとする。
3.3.4	<input type="checkbox"/>	年 月	地域固有の品種特性や栽培技術、作物の特徴を守り育む、地域野菜の栽培に努めている。
4.2.1	<input type="checkbox"/>	年 月	住宅地等の近くでの作業は、早朝または夕方遅い作業での騒音・雑音は最小にするよう配慮している。

上記の中の選択項目については、3項目を選択して実施するものとする。

5 農薬および肥料等資材の使用計画

使用農薬（フェロモン剤、生物農薬等カウントしない農薬も含めて記入する。）

基本的な防除体系

使用時期	農薬名（剤型等、商品名を正確に記入のこと）	化学合成農薬の成分数
	計	

上記の農薬に代え、または追加して使用する可能性のある農薬のリスト

（のべ使用成分数が化学合成農薬の使用量の基準を超えない範囲内で当該年度の滋賀県農作物病害虫雑草防除基準の当該作物欄に記載されている農薬が使用できる。）

使用時期	農薬名（剤型等、商品名を正確に記入のこと）	化学合成農薬の成分数

*農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに書かれている農薬使用基準の確認・遵守が必要です。

使用資材（肥料、堆肥、土づくり資材等）

使用時期	資材等の名称（農薬以外に使用する資材を全てを記入）	窒素成分の割合（％）	化学肥料窒素成分の割合（％）	使用量（／10a）	窒素分量（kg／10a）	うち化学肥料窒素分量（kg／10a）
				計		

「行動基準」アクションコード確認表 氏名 _____

作物名 _____ 栽培地 _____ 栽培面積 _____

複数筆の場合は、別紙一覧表を利用のこと。

コード	実施基準	基準内容
-----	------	------

○ 必須項目

1 安全安心への取組

(実際の確認実施日を記入のこと)

1.1	化学合成農薬の取扱い	
1.1.1	<input type="checkbox"/>	国内登録農薬の中で、滋賀県農作物病害虫雑草防除基準に基づく農薬を使用している。
1.1.2	<input type="checkbox"/>	農薬の取扱い（混合・希釈）と散布は、ラベルの指示に従っている。
1.1.3	<input type="checkbox"/>	農薬散布について、記録をしている。
1.1.4	<input type="checkbox"/>	農薬の購入に当たっては、計画的な購入をし、散布におけるやむを得ない残量は、散布むらの補正対応で処理している。
1.1.5	<input type="checkbox"/>	苗を育成する場合、育苗記録と使用農薬の記録をしている。
1.1.6	<input type="checkbox"/>	点検・モニタリング・予察により適期に適正な防除に努め、最低必要量による農薬防除をしている。
1.2	肥料	
1.2.1	<input type="checkbox"/>	購入した肥料はその化学成分表を確認し、窒素、リン酸、カリウムなどの含有量を把握している。
1.2.2	<input type="checkbox"/>	過度の施肥による土壌、地下水、作物の汚染が起こらないよう、必要最低限の施肥量を適切な方法や技術で施肥栽培している。
1.2.3	<input type="checkbox"/>	施肥について記録をしている。
1.3	農薬の飛散・残留への対応	
1.3.2	<input type="checkbox"/>	周辺地への農薬のドリフト（飛散）がないように、散布方法や散布機具のノズル対応、風向きなどに気をつけている。
1.3.4	<input type="checkbox"/>	指定農作物について、出荷前の休薬期間「収穫前日数以上に加算日数」を設けています。附表の休薬日数指定作物表に基づき実施
1.4	堆肥の適正利用	
1.4.1	<input type="checkbox"/>	堆肥などの使用はリスクを判断し、完熟堆肥を利用するなどリスクを回避するよう工夫している。（附表の堆肥その他の有機質資材の適正施用量を参照）

1.5	土づくり	
1.5.1	<input type="checkbox"/>	土づくりに向けた前作の稲わら、籾殻、麦わら等のすき込みをしている。
1.6	安全管理	
1.6.1	<input type="checkbox"/>	肥料が農産物、種苗、梱包材、農薬などと接触しないよう保管している。
1.6.2	<input type="checkbox"/>	防護服・防除器具等は、防除作業後に清掃・洗浄している。
1.6.3	<input type="checkbox"/>	栽培する品種を選択する際、消費ニーズ、耐病性、耐虫性、農薬や肥料の使用量が少ないものなどから品種を選択している。地域の伝統野菜は、この限りでない。
1.6.4	<input type="checkbox"/>	農作物の輸送時の安全対策として輸送用のトラック、コンテナ等を異物混入などがないか確認するとともに清掃している。
1.6.5	<input type="checkbox"/>	農産物の取扱いについては、体調の悪い人やケガのある人の作業を中止する。手洗い、詰めの高さ、喫煙・休憩・食事の場所など安全対策に工夫している。
1.6.6	<input type="checkbox"/>	農地や農業施設から出るゴミを減らすと共に分別処理し、野菜くずなど作物残渣は農地に還元したり、家畜飼料に利用している。
1.6.7	<input type="checkbox"/>	農薬の空き容器の処理は、適正処理として公的な機関などの廃プラスチック回収を利用している。
1.6.8	<input type="checkbox"/>	作業者は農薬のラベルに従って、ゴム靴、防水服、ゴーグル、ゴム手袋、マスクなどの防護服を着用している。

2 景観形成

2.1	圃場管理	
2.1.1	<input type="checkbox"/>	麦、稲などのわらや籾殻などは農地に還元している。圃場全体での焼却はしないが、やむを得ない一部での焼却は火の管理に努めている。
2.1.2	<input type="checkbox"/>	圃場の適正管理に努めるとともに、特に収穫後の農作物残渣を放置せず、早期すき込みをしている。
2.1.3	<input type="checkbox"/>	圃場の使用していない間（未使用期間）は、適正に雑草管理をしている。
2.2	耕種的雑草対策	
2.2.2	<input type="checkbox"/>	風景を損なうような除草剤の使用を避け、景観に配慮して耕種的防除を行うなど、除草剤の使用について工夫している。

3 水質管理と水利用

3.1 水環境対策		
3.1.1	<input type="checkbox"/>	魚介類に強い影響を与える恐れのある化学合成農薬魚毒性区分C類の使用を避けるよう努め、やむを得ず使用する場合は、水域に流出しないよう工夫をしている。
年 月 日		
3.1.2	<input type="checkbox"/>	除草剤をはじめ農薬や肥料を必要以上に使用しないよう気をつけるなど、使用した農薬や肥料が水域を汚染しないよう各種代替技術を活用する工夫をしている。
年 月 日		
3.1.3	<input type="checkbox"/>	化学肥料の保管場所には、梱包の破損や雨の影響や水域を汚染しないよう気をつけている。
年 月 日		
3.2 水利用対策		
3.2.1	<input type="checkbox"/>	未処理の下水は灌漑に使わず、下水が圃場に入っていないようにしている。
年 月 日		
3.2.2	<input type="checkbox"/>	農産物を最後に洗う水や農産物と触れる水や水は飲んでも害のない、地域の飲用水の基準に適合しているものを使用している。
年 月 日		
3.2.3	<input type="checkbox"/>	農産物を洗う水が、下流水路などの水域を汚さないよう工夫をしている。
年 月 日		
3.3 生態環境		
3.3.3	<input type="checkbox"/>	自分の農業活動によって起こる環境破壊を最小限にとどめるために何らかの努力をしている。
年 月 日		
3.4 研修		
3.4.1	<input type="checkbox"/>	行政等が開催する研修会に進んで参加するようにしている。
年 月 日		

4 審査その他事項

4.1 審査		
4.1.1	<input type="checkbox"/>	自己審査を年1回以上行ったことが、チェックリストの記録でわかるようにしている。
年 月 日		
4.1.2	<input type="checkbox"/>	自己審査の結果、不適合であった項目を改善し、記録として残している。
年 月 日		
4.1.3	<input type="checkbox"/>	審査の受入時には、関係記録を準備し、対応が出来るようにしている。
年 月 日		
4.3 エネルギー		
4.3.1	<input type="checkbox"/>	ハウスの加温、穀類の乾燥など機械等の使用で不必要・非効率的なエネルギー消費がないよう努めている。例えば、不必要な照明の消灯や木質ボイラーなどの利用
年 月 日		

○ 選択項目

(選択項目をチェックのうえ実施の予定日を記入のこと)

1.1		化学合成農薬の取扱い	
1.1.7	<input type="checkbox"/>	年 月 日	ミツバチなどの有用昆虫やナノテープ・粘着板等を利用して使用農薬を削減している。
1.3		水環境対策	
1.3.1	<input type="checkbox"/>	年 月 日	農作物について年1回以上残留農薬分析を行うよう努めている。 (市の実施する残留農薬分析を利用)
1.3.3	<input type="checkbox"/>	年 月 日	農薬のドリフト対策として緩衝地帯や遮蔽物・バンカー作物などを設ける対策をしている。
1.5		土づくり	
1.5.2	<input type="checkbox"/>	年 月 日	土づくりに向けた、土壌改善、土壌団粒化、土中の微生物量の増加などの努力をしている。(堆肥施用量は：別表参照)
1.6		安全管理	
1.6.9	<input type="checkbox"/>	年 月 日	農薬に対する依存を軽減・残効肥料を有効利用することから、輪作に努めている。
2.2		耕種的雑草対策	
2.2.1	<input type="checkbox"/>	年 月 日	畦畔を有する圃場の畦畔草刈により除草剤を控える耕種的対応や圃場周辺にカバープランツ、花などの景観作物を植栽している。
3.3		生態環境	
3.3.1	<input type="checkbox"/>	年 月 日	農地周辺に生息する動植物を把握しており、それらと自分の農業活動にどのような関係があるか認識している。
3.3.2	<input type="checkbox"/>	年 月 日	農業生産に支障の無い範囲で、自分の農地内または周辺地の動植物の多様性を助長するために努めている。ただし、獣害や害虫対策としては助長しない適正管理を行うものとする。
3.3.4	<input type="checkbox"/>	年 月 日	地域固有の品種特性や栽培技術、作物の特徴を守り育て、地域野菜の栽培に努めている。
4.2.1	<input type="checkbox"/>	年 月 日	住宅地等の近くでの作業は、早朝または夕方遅い作業での騒音・雑音は最小にするよう配慮している。

上記の中の選択項目については、3項目を選択して実施するものとする。